

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号500253にて毎週受け付けています。
★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:500252 1口1000円～ にて毎週受け付けています。
★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:500251 1口500円にて毎週受け付けています。
★JOSO脱プラ基金は注文番号:500254 1口500円にて毎週受け付けています。



News Letter

2022年1月3回号 発行:常総生協広報G



2021年度活動テーマ「笑顔で育む免疫力」

地場の大豆プロジェクト いよいよ収穫時期に突入!!

2021年シーズンの「地場の大豆プロジェクト」は大詰めを迎えています。12月13週～に入り生産者にて順次収穫をおこなっています。今週は「どんぐりてい」の収穫に立ち会った組合員理事から現地レポートをお届けします！

～どんぐりてい 収穫レポート(12/12)～

大豆プロジェクト、どんぐりていに訪れるのは四回目となりました。実は十月に、大豆が順調に育っているのかどうかを見せていただき、形ばかりの除草作業をさせていただきました。その際、収穫作業を見学させて欲しい…と、申し出たところ、倉持さんから「明日(12/12)、刈るよ」と連絡をいただきました。12月にしては暖かく、朝露が乾いたであろう午後に、葉が落ち、茶色いサヤがたくさん付いた大豆を轟音と共にコンバインがどんどん刈っていきました。運転しているのは、「常陸秋そば」を栽培している中田さんです。常総生協にはどんぐりてい経由でそば粉を、野口のタネには「常陸秋そば」としてタネを提供していらっしゃいます。そばを収穫するためのコンバインを、三人で一日かけて大豆用のパーツに取り替え、収穫にきてくださいました。かつて、どんぐりていでは、機械を使わずに大豆を収穫したことがありますが、刈り取り、その後の脱穀作業に一週間以上かかったとのこと。大豆プロジェクトに協力するにあたり、中田さんにコンバインでの刈り取り作業をお願いしました。中田さんの華麗なるコンバインの運転によって、三つの畑を二時間弱で収穫終了。軽トラの荷台に大きな袋を載せ、大豆を移し終わると、だいたい四百kgとのことでした。収量は上々。ですが、私たちが気になったのは、刈り取り後の様子です。



畝の段差があるため、コンバインでは限界があり、10cmほどの茎が残ってしまいました。地面との距離を見計らいながら、コンバインの先端を上下させて調整しているのですが、それでもサヤが付いたままの茎が残りました。(右写真・丸部分) 収穫された大豆は、多少の割れ欠けがあるものの、丸々として美しく、このような大豆がまだ畑に残されていると思うと「もったいない」の言葉しか出ませんでした。そこで、できる限り、この残された大豆を収穫したいと思っています。茎ごと引き抜いて、その後脱穀する予定です。組合員の皆様にもお手伝いをお願いしますので、ご協力をお願いします。大豆の播種、除草、収穫に関わるこ



とで、命を育むことの大変さ、だからこそその尊さを実感しました。機械で刈るなら畝はない方が良いでしょう、そうすると除草が大変。もう少し早くに播種して茎丈を長くしてあげる、等、来年への課題も見えてきた、学び多き一日でした。（理事長：増本）

～ダニエル有機農園訪問(12/10)～

ダニエル有機農園さんのところでは、12月6日週～に大豆収穫をおこないました。

ダニエル有機農園さんのところでは古くから八郷地区で受け継がれてきたやささと在来の青大豆を育てました。今年は初の試みで約2反(20m×100m分)、あえて畝(うね)を作らず除草しやすい環境で大豆を育てました。私たちが9月に大豆畑に訪れた時は、その雑草の少なさに驚きました。

収穫したての青大豆はカメムシの被害による斑点病や若干の割れ欠けが見受けられましたが、無事収穫の時期を迎えることができました。（常勤理事：小宮山）



《収穫量の速報》

- どんぐりてい...200～300kg
- アグリ古柿土...150～180kg
- ダニエル有機農園...150～180kg

★一般的な大豆(黄白色)、青大豆の2種類を作っています。カタログ表記は大豆(黄白)の写真を掲載していますが、青大豆が届く場合があります。

★大豆が足りない場合は、昨年お願いしていた山形県・おきたま興農舎の農薬無散布の「青大豆」に切り替えます。

ご利用いただく場合は、何卒ご理解ご了承くださいますようお願い致します。

2021年オンライン生協まつり開催報告

チャンネル1：秋川牧園（参加者18名）

秋川牧園は、本州の最西端山口県山口市にあります。市街地から少し離れたところに会社があり、いのししが出てくるような自然豊かな環境にあります。経営理念に「よい人生によい食べ物」と掲げており、創業者の秋川房太郎さんの口癖は「口に入るものは間違っていない」だそうです。

日本の鶏肉に関しての自給率は、65%前後で輸入の1位がブラジルで7割、タイが3割。中国は鳥インフルエンザが流行ったので入ってこない。しかし、加工すると輸入は可能になるそうで、外食などで安価で食べられるものは中国産の可能性があるので注意が必要だそうです。

続いて、ブロイラーの説明をしていただきました。ブロイラーは、1960年代に日本に入ってきており、ウィンドレス（窓がなく光が入ってこない）鶏舎でぎゅうぎゅう詰め。朝昼晩の差がなく目の前には常にエサがあるためエンドレスでエサを食べる（→効率よく太る）。統計をとると、日本はウィンドレス鶏舎の方が多くそうです。またエサに関して、アメリカ産の鶏肉の飼料には牛骨粉が使われており、日本では豚や鶏ガラを使っています。



更に、病気になると困るから抗生物質を予めエサに混ぜるというように効率重視の飼育になっています。また市場では、動物由来の飼料原料が流通しており、フェザーミール（処理後の鶏の羽根が原料）やチキンミール（処理後の鶏の不可食部が原料）、血粉（豚・鶏などの血液を集めて粉にしたもの）が当たり前に使われています。（こういった物を使うと鶏肉を食べるときに臭みがでるそうです。）

続いて、農場から現場レポートを山口さん(写真：右)がしてくれました。生まれたひよこは体重40gくらいで体温調節ができないので33℃位（親鳥の羽根の下くらい）の温度をキープするそうです。外気が寒すぎるので鶏舎にビニールで風よけを作っています。

解放鶏舎なので自然の明かりが入り、明るくなったら起きて暗くなったら眠るという生活でひよこ達がとても元気です。ストレスが一番病気になる要因だそうです。1坪あたりだと35羽です。（一般的な鶏舎は50～60羽程度）約60日間育てます。エサはnon-GMOのトウモロコシや大豆などの穀物類、国産のお米など。



普通は鶏達が出荷後、鶏ふんは捨てるのですが、秋川牧園では発酵熱殺菌してあるので臭くなく、ひよこ達のベッドに。残った物は、米作りなどの肥料にして循環しています。

最近では、若い生産者も増えており、活気があるそうです。秋川牧園はアミノ酸をはじめ、添加物不使用です。また、色々な部位を食べることによって命をいただくこと・フードロスを減らすことにつながるとおっしゃっていました。ぜひこういった思想をもった生産者を食べることで支えていきましょう。



1月3回「秋川牧園さん」のイチオシ商品

306 鶏の焼きつくね 180g 360円(税抜)

香ばしく焼いた大きめのつくねに、濃い口醤油タレをからめました。お弁当やおかずどうぞ。

第110回 脱原発と暮らし見直し委員会 報告

2021年12月10日(水) Web会議 13時半～16時 組合員7人参加。

Zoomを利用し、Web会議で開催しました。セシウム測定値、イノシシ肉県産品への反対意見書、牛久入管、東海第二原発差止訴訟などについて情報交換しました。

- 各地の放射性物質測定結果では、キノコや野生動物などが基準値を超えています。測っているところから購入しましょう。
- 茨城県のイノシシ肉利用拡大プロジェクトに反対する常総生協としての申し入れ書を県の担当部署に提出することにしました。12/16(木)11時に県の担当者と委員が面談し、県の現状説明などを聞くことになりました。提出に参加できない委員はオンラインで意見を述べる予定です。県議会議員に知らせるため陳情書として提出することも検討中です。
- 東海第二原発差止訴訟は、控訴理由書に対する答弁書を作成しています。最初の口頭弁論は来年の3月または4月の予定です。
- 牛久市にある東日本入国管理センターの収容者に対する人権問題などについて私たちにできることはないか話し合いました。組合員の皆さんからもご意見ご提案をお寄せください

★次回は、2022年1/12(水)13時半～Web会議の予定です。Web会議には生協からも参加できます。委員会とはどなたでも自由に参加できます。参加希望の場合は常総生協HPの「組合員専用お問い合わせ」フォームから事前にご連絡ください。

一部分かりやすいように書き換えてありますが、解釈が違っている場合は、修正しますので遠慮なく申し出てください

No	題名	観た組合員さんからの感想文
31	原発ゼロでがっちり	吉原毅さんという方、知識人ですね！「立て板に水」お話がとてもうまく、原発ゼロへの多くの知識に驚きました。
33	太陽の蓋	何となくニュースで時々見たり聞いたりしていましたが、実話をドラマ化し事実を明らかにし、驚くことの多い事。「埴生の宿」の曲で終わると怒りと悲しみが...不誠実への闘いをしたい。
42	子どもの貧困	画像が悪く途中切れる。とても分かりやすく作られていることは良かったのに、最後は残念ながら良く分からなかった。とても関心が高いので、ぜひ作り直してください。
53	未来の食卓	ユネスコ本部のシンポジウムでの報告・提言を下敷きにしながら給食への経緯が紹介されていく。環境汚染（食品添加物を含む）に起因する疾病（不妊、多動性障害も）から健康を守る未来の食卓のために決断をした村長の言葉は、氏の哲学に裏打ちされた強い説得力を持ち感動的だ。（日本の為政者とは大違い）。そしてこれを給食初日の合唱が象徴する。子どもの自主性を重んじる教育が吸収していく。深刻だが楽しい作品。
54	自然と共存する農のかたち	魚住道郎さんが青虫の“天敵の生態”の観察から話を展開してゆくのが興味深い。観察するというのは「自然にある仕組み、彼らの命の連鎖・繋がり」を実証的に解き明かす科学的な態度だ。そして、この仕組みに逆らわず、かつ、作物の回復力を利用して農業を営もうとするのは実に理に適った誠実な態度だと思う。有機農法が消費者を生産物の利用者の位置に止めておけない理由がわかった。
57	ミツバチからのメッセージ	神経経路を異常にして殺虫するネオニコチノイド系の農薬は浸透性農薬で、洗っても落ちず、特に胎児・乳幼児の脳に深刻な影響を与える。ミツバチの最初の被害は商品名「ダントツ」からだったが、本当に断トツに恐ろしいのは製造メーカーの責任転嫁の態度と行政のその場しのぎの対応だ。「血液脳関門」が無効なら、まずは認識の関門を進化させて、彼らの価値観が脳の中に侵入しないようにしよう。
58	ニコチンまみれのミツバチ	「（受粉が仕事の）ハチが消えたら人類は4年後には滅亡する（アインシュタイン）」」。なのにヨーロッパやアメリカの農薬使用実態は破滅的・殺人的で度を越している。しかし一方で養蜂業者と農民の一連托生の関係は強く、ついに蜂の失踪と高濃度のニコチノイド系農薬との関連に辿り着き、ネットでこの情報は世界中をブンブン飛び回ることとなった。日本では除草剤などとして一般向けにも売られている。
60	いのちの食べ方	“いのちをいただく”それは誰かに生き物を殺してもらって食べているということだ。だから、屠殺シーンはショッキングではある。特に牛のそれは大型動物ゆえインパクト大だ。無辜の牛は放血による死を境に生き物から食べ物となる。作業員は日常の仕事として誇りを持って淡々と行ってゆく。実は私たちは無駄に食べさせられてはいまいか。本当に必要な食べ物・量を選ぶことで無益な殺生は避けられる。
61	前川喜平さんが語る「こども☆いのち☆ゆめ」	前川先生のお話は大変ユニークだし、わかりやすく、ぜひぜひ広めていきたいので、コロナが終わったら、多く集めて前川先生の話を広めたいと思います。
62	スーパーサイズミー	業者任せのジャンクフード給食には驚かされた。好きな物を選べるようだが、元々“ヘルシーな食品”は用意されていない。マクドナルド、全く食べないが「自分が食べなければ」では済まなそう。キムタクを起用して、安くて美味しくてカッコ良い食べ物と連日アピールしているような状況下での“自己責任”との謂いはCMのワナに辿り着けない者の常套句だ。遊び場を特設し、親ともども子供まで取り込む手法の罪は大きい。
77	アフガニスタン用水路が運ぶ恵みと平和	中村哲医師とペシャワール会の事業については機会あるごとに接してきましたが、もっともっと未読の書籍がありますし、手元の本も読みなおし、深く考えていきたいと思いました。
79	コスタリカの奇跡	コスタリカの武器を持たないまでの闘いの見事さは圧巻でした。
80	この世界の片隅に	一度は見たいと思って、なかなか機会がありませんでした。さすが、印象強く、語り継がれている理由がよく分かりました。